

# 「漢字の花火」と「漢字の池」 どっちが好き？

～拡散型漢字ゲームについての生徒アンケートから～

2019.3. 教育エジソン

オリジナル開発の拡散型漢字ゲーム「漢字の花火」と「漢字の池」は、勤務先の学校設定科目「読み書き検定」（国語自由選択科目2単位）で実施しています。

科目としては各自の実力に応じた漢字検定への挑戦・合格を目標にしており、私の講座では、生徒が各自のペースで学習に取り組み、達成感を得ることのできる「チャレンジ方式」で進めています。※「チャレンジ方式」については近日公開予定ですが、関心のある方は、問合せフォームにて。

その授業の冒頭に、「漢字頭を目覚めさせよう」と言って、これらの拡散型漢字ゲームを毎回やっています。授業時間は45分2コマ続きなので、1コマ目の半分以上をこれに費やしています。

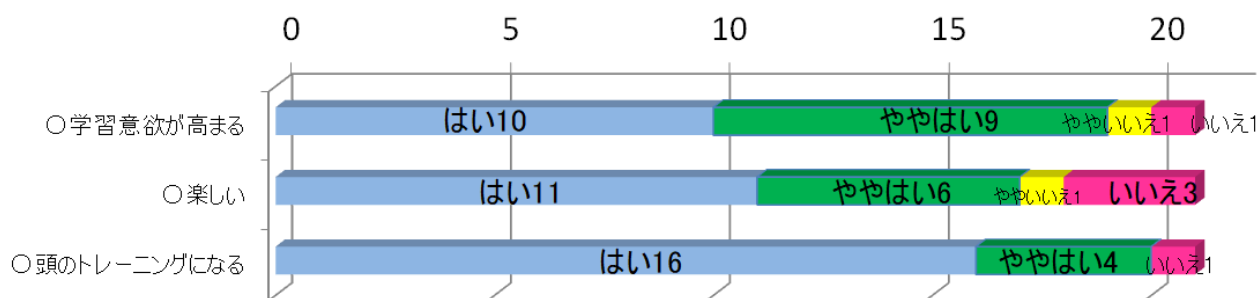
2018年度、1年間2つの漢字ゲームを体験した生徒たちへのアンケート結果です。複数クラスで合計21人から回答が得られました。結果の合計はすべて21となります。

## 1) それぞれのゲームについて次のように感じますか

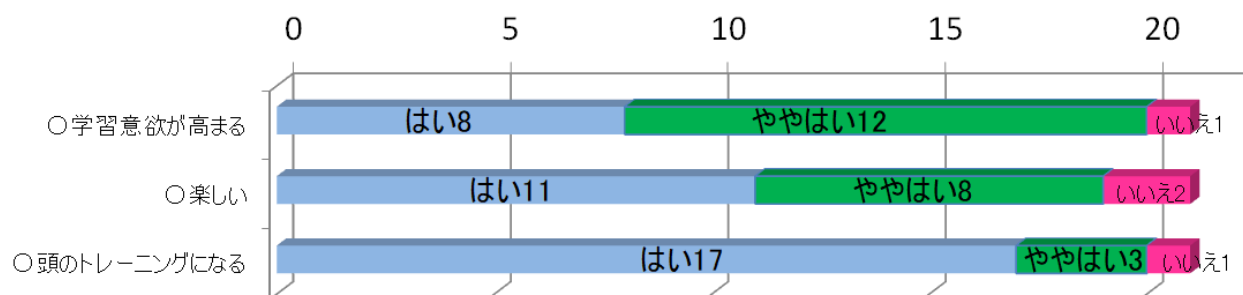
○学習意欲が高まる ○楽しい ○頭のトレーニングになる

→ はい ややはい ややいいえ いいえ で回答

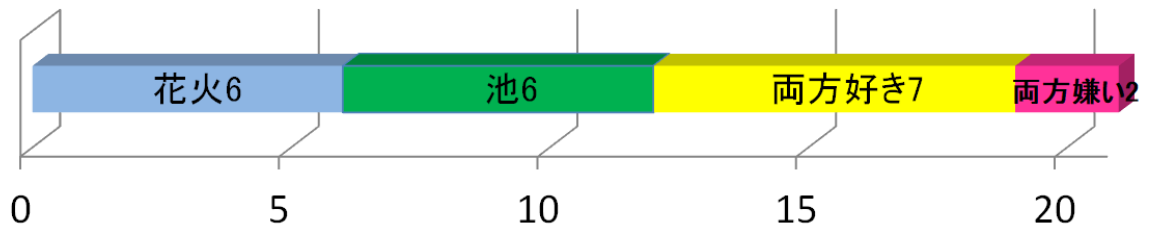
### ①漢字の花火について



### ②漢字の池について



## 2) 漢字の池と花火どちらが好き？



### (1) 花火が好きな理由

- 花火の方がシンプルで分かりやすく、読みの1文字から始まるのでかなり自由がきき、楽しかったです。出るときはほんとうにたくさん漢字が出るので、すごいと思いました。
- 花火の方は皆の発想力(?)みたいなのがわかり、とくにだんだん広がっていくのがおもしろかったです。
- 花火の方が最初の一文字縛りで考えられるので、楽しさが強かったかもしれません。
- 花火の方がいろいろ漢字が出てくるので、好きでした。池は1個ぐらいしか出てこないで、難しいなあと思い、少し苦手です。

### (2) 池が好きな理由

- 池の方はすごく簡単で、またやりたいという気持ちになるし、すごく楽しかった。花火は少しむずかしい。
- 漢字の池はとてもおもしろかったです。やっているうちに漢字が頭の中から浮かび出てきて、達成感を感じられました。
- 池の方が自分の知らない漢字を知れる機会が多く、個人的には、池の方が頭のトレーニングになると思いました。
- 池の方がぱっと出てきやすく、見たことのない、聞いたことのない漢字など、復習・予習になりました。
- 花火の方は漢字の池と比べてレパートリーが多く、個人的に難しいと感じたからです。池の方は一文字書けばいいのでやりやすかった。

### (3) 両方好きな理由

- 個人的には両方難しく、頭をたくさん使って発見も多く楽しかったので、両方好きを選びました。初めは苦手だった池や花火もだんだん慣れてきて、楽しかったです。
- どちらも程よく頭を使ってできるので、難しさもちょうどよく、やっていて楽しかったです。知っている漢字の種類が増えた気がしました。
- 池は1つの漢字から作るだけで単純だけど楽しい。花火の方はもっと漢字の幅が広がると思うし、池よりも発見が多くて、こっちも楽しい。なので両方好き。自分でも暇つぶしにやろうと思う。
- 両方とも、「誰もあんまり書かなそうなものを考えよう」の精神でしていたから両方好き。漢字の池は「別の読み方とかする漢字を」、漢字花火は「同じ読み方でも出なさそうなもの」みたいな具合でしてたから、頭のひねり方が違って楽しかった。

#### (4) 両方嫌いな理由

- 漢字が苦手な自分にはあまり好きでなかったです。でも、漢字がたくさん出てきたので勉強になりました。最初は両方とも嫌でしたが、最後らへんは楽しかったです。
- 漢字がとても苦手なので、このゲームはあまり好きではありませんでした。漢字のできる人とできない人と後半ははっきり分かれてしまっていたので、何の時間なんだろうと思っていました。

### 3) 漢字ゲーム全体の感想

- 授業の初めに行うので、頭も動かせるし、あたらしい発見もあったりして、とても楽しかったです。自分の記憶力をいい感じに持って行けました。
- 全体的にみんなが楽しんでいたのでいいと思う。ウォーミングアップの意味もあって、あとの漢字の練習に効果的だと思いました。
- 最初は苦手だったが、学習していくうちに楽しいと思えるようになった。息抜きと学習が同じくらいにできるなと感じたので、どちらも楽しかったが、個人的には花火の方が好きでした。
- ふだんはスマートフォンの変換機能に頼ってしまいがちなので、よい頭のトレーニングになりました。
- 漢字は全然知らないから、他の人が答えたのを見て、そう読むんだとか、そんな漢字があったのかと、発見が多くて楽しかったです。
- 両方とも難しかったのですが、頭を動かせる必要があるので、漢字を書き写すだけの作業より頭がさえたような気がしました。
- 漢字をたくさん使うドラマなんだと思っていたので、他の人が書いたやつをメモして勉強になりました。
- 自分の知らない漢字がわかったり、こんなのあったなっていうときもあり、けっこう楽しめた。

#### 【教育エジソンのコメント】

「頭のトレーニングになる」ことはほとんどがもろ手を挙げて賛成ですが、「学習意欲が高まる」か、「楽しい」かという、少しためらいが見えているのは生徒の本音だと思います。

「どちらが好き？」は、あまりにもきれいに分かれました。それぞれを少し苦手と思う生徒がいるようで、個人の脳の特性にもよるのでしょうか。両方をくり返し体験することで、脳機能がバランスよく高まるのではと思います。

「両方好き」と答えたのは、漢字の知識や使いこなし能力が高い生徒で、それぞれのゲーム課題に自分なりの問題意識を持ち、意欲的に臨んでいたことがわかります。

逆に「両方嫌い」と回答したのは、かなり深刻に漢字の苦手な生徒です。授業の本題である個人ペースの漢字学習もなかなか進みませんでした。

嫌いな生徒の理由の中に「できる人とできない人と後半ははっきり分かれてしまっていたので」とあるのは、思いつかなければパスありなので、だんだん特定の生徒しか書かなくなっていくことを言っています。そこで、「原則、何も見ずにやるが、どうしても出せなくなったらテキスト(漢字検定問題集)を見てもいいよ」というルールにしました。